

天草のマグロ養殖に出資

西日本シティ銀行や九電工などが出資しドーガン・インベストメント(福岡市)が運営する「チャレンジ九州・中小企業ががんばれファンド」と肥後銀行などの地域活性化ファンドは、熊本県天草市の完全養殖マグロ業者に29日付でそれぞれ出資する。

マグロは世界的な需要増

ドーガン系と肥後銀系ファンド

と漁獲規制により、安定供給が課題となっている。人工ふ化による完全養殖は今後の成長が見込めると判断した。

投資先はプリミー(同市、浜忠臣社長)と福吉魚類(同、浜隆博社長)の2社。両社に対してドーガン系ファンドが計4800万円、肥後銀系が計7800万円

2社に計1億2600万円

を出資する。運転資金や設備更新資金に充てる。

両社はこれまでプリの養殖・加工を手掛けてきたが、07年から近畿大学水産研究所(和歌山県白浜町)が開発した人工ふ化によるクロマグロの完全養殖事業に国内で初めて参入。昨年からは出荷を始めた。現在の出荷量は年1000匹弱。2、3年後には年1万匹規模を安定的に出荷したい方針だ。

肥後銀行(熊本市)子会社の肥銀キャピタル(同)と、ファンド運営会社のドーガン・インベストメンツ(福岡市)は28日、それぞれが運営するファンドを通じて、人工ふ化したクロマグロの完全養殖に取り組む福吉魚類(熊本県大草市)と、関係会社の水産加工業者

マグロ完全養殖 肥後銀系など投資

プリミー(同)に、計1億2600万円を投資すると発表した。09年から米国向けに試験的に出荷を始めており、2〜3年後に年1万匹の供給が期待できる」として投資を決めた。

天草の業者に1億2600万円

万匹出荷する養殖業者。出荷を目指すという。世界で初めてクロマグロの完全養殖に成功した近畿大から養殖稚魚を譲り受け、2007年からマ

ワ)の数も減少している。肥銀キャピタルとドーガンは「完全養殖技術の確立で、九州からの安定供給が期待できる」として投資を決めた。

投資額は肥銀キャピタルが株式と社債計7800万円。ドーガンが株式計4800万円。養殖い

加の一方、漁獲規制が強化されており、養殖のた

め捕獲される稚魚(ヨコ

マグロ完全養殖に投資

肥銀など2ファンド 1億2600万円

人工ふ化からの完全養殖のクロマグロ養殖化に取り組む水産加工業のプリミーと、グループ会社の養殖業の福吉魚類(天草市)に対して、肥後銀行と肥銀キャピタルが出資する地域活性化ファンドと、福岡市の投資ファンドが計1億2600万円を投資することが28日、分かった。

プリミーと福吉魚類は、2012年には養殖マグロの年間7千匹

の安定供給を目指しており、調達資金はエサの購入やいけす更新などに活用。自己資本の増強も図る。

同社の第三者割当増資に対し、地域活性化ファンドが計2800万円、福岡市の投資会社ドーガン・インベス

トメンツが運営するファンドが計4800万円を引き受ける。いずれも実施日は29日。

地域活性化ファンドは、福吉魚類が発行する普通社債5000万円も引き受ける。プリミーは07年、近畿大水産研究所(和歌山県)が世界に先駆けて生産技術確立した完全養殖クロマグロの生産化に着手。牛深沖で1万匹超のマグロを育てている。

完全養殖マグロは世界的に天然マグロの漁獲規制が進む中、米國などで需要が高まっており、プリミーも昨年11月、米國輸出を試験的に始めた。

同社の濱隆博部長は「天草のマグロを安定供給できる態勢を整えたい」としている。(中原功一朗、原大祐)